

過去の歴史を架け橋に  
鹿児島と岐阜との  
絆を結ぶ

薩摩藩士(薩摩義士)によって行われた、江戸時代中期・宝暦年間の濃尾平野(のうび)曾三川(さんせん)の治水工事。住吉さんはそのときの絆がもとで昭和47年に始まった、鹿児島・岐阜青少年ふれあい事業の事後活動組織「鹿児島県『美濃の会』」の会長を務め、両県の友好・親善関係をさらに深めていこうと尽力している。

また、最近では岐阜県を訪れるたびに薩摩義士をまつっている大小さまざまなお寺を訪ね、岐阜の方々によって薩摩義士が広く顕彰(けんしょう)されていることにあらためて敬意を払うとともに、若い人材が引き続いて交流を発展させていくことを期待している。

そんな住吉さんに「美濃の会」の活動内容や、初めて岐阜県を訪れたときのこと、そしてこれからの両県の関係について語っていただいた。

鹿児島県「美濃の会」会長

住吉 義輝さん

Yoshiteru Sumiyoshi

## 「美濃の会」に参加された きっかけを教えてください

私はもともと歴史が好きで、薩摩義士の治水工事についても概要ぐらいは知っていたのですが、もっと学びたいと思っていたんです。そんなときに目にしたのが、鹿児島・岐阜青少年ふれあい事業の参加案内。「これだ！」と思ってすぐに申し込みました。以来、お互いの絆や思いやりの精神が感じられる交流に魅了されて、今でもずっと活動を続けています。

「美濃の会」は青少年ふれあい事業に参加した人たちが中心となり、その後も研修など継続的に岐阜の人たちと交流を続けている団体です。研修のみならず、例えば、鹿児島から岐阜にスキーに行ったり、岐阜からはこちらに海水浴に来たりしています。今年の研修場所は岐阜なので鹿児島側がツアーを計画しますが、3月に九州新幹線が全線開業したこともあって中間地点の広島で会うのはどうかという案も出ています。

会には大学生や教員、銀行員などさまざまな職業の方々に参加していて、その異業種交流も非常に有意義で面白いですね。年代層も幅広く、なかには親子二代で参加している方もいるんですよ。

## 初めて岐阜県を訪れたときの第一印象は

初めて長良川を見たとき、川の大きさが鹿児島と全然違うことに驚きました。河川敷にサッカー場があったり、幹線道路がすぐ横を走っていたり、それが遠くまでずっとまっすぐ続いているんです。木曾三川に治水工事が必要だった理由や、それをやり遂げた薩摩義士の偉大さを実感しましたし、私たちの活動を通じて少しでも多くの人、特に若い世代にはあらためて薩摩義士の偉業を伝えていくべきだと思いました。

実は、青少年ふれあい事業で岐阜を訪れる以前に、一度出張で行ったことがあったんです。その際、鹿児島から来たということで現地の方々がとても親切だったんです。そのときはどうしてだろうと思ったのですが、この事業に参加してその理由が分かりました。



それ以降何度も岐阜を訪れています。人々の温かさは今でも変わらないですね。

## 交流のなかで 思い出深いエピソードは

これはプライベートで行ったときの話ですが、現地の小学校の先生をして友人に突然「薩摩義士のことを子どもたちに話してくれ」と頼まれて、放課後の学活で話したことがあります。わずか10分足らずの時間でしたが、鹿児島人である私が岐阜の子どもの前で話すことには少なからず意義があったのかなと思っています。

また、薩摩義士を顕彰する式典が毎年両県で行われていますが、これには両県の副知事が参加されることが多く、個人的にも親しくさせてもらっています。実は現在の岐阜の副知事も鹿児島出身の方なんです。縁だなと思いますね。

最近では岐阜を訪れるたびに、薩摩義士をまつっているお寺に参拝するようになっています。岐阜には春と秋に顕彰式が行われる代表的な治水神社のほか、薩摩義士をまつっているたくさんのお寺があるんです。岐阜の方々の薩摩義士に対する感謝の思いが感じられて、私もまだまだ勉強しなくてはいけないなと感じています。

## 鹿児島県と岐阜県の 今後の交流について

実際に現地に行ってみて初めて実感できることもたくさんあると思うので、機会があればぜひとも岐阜に足を運んでほしいですね。私自身、この活動を通じて本当にいい経験をしていると思いますし、視野も広がりました。

いろんなことに挑戦したり経験したりすることで、多くの人と出会い生まれてくる絆は、何にも代え難い大切なものになると思います。今年には鹿児島県と岐阜県が姉妹県協約を結んでから40周年という節目の年にあたります。絆がどんどん広がっていくけば、もっと豊かな人生につながっていくはずだと思います。



「美濃の会」に参加するきっかけとなった第32回鹿児島・岐阜青少年ふれあい事業(平成15年)の鹿児島県の参加者(後列左から4人目が住吉さん)